

分析結果報告書〔8〕1/3

1. 8 模擬排水試料（全リン）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(か ^ホ 25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

回数	分析結果 (mgP/L) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満の場合：検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。配布試料を20倍希釈した後の、分析用試料の測定結果を記入する。「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満の場合：検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

注3) 分析法の検出下限値未満であった場合、分析法の検出下限値 (MDL) を有効数字1桁で記入する。

<分析開始日等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

<分析方法等>

分析方法	1. ペルオキシ二硫酸カリウム分解法 2. 硝酸-過塩素酸分解法 3. 硝酸-過塩素酸分解法 4. 流れ分析法 注1) 5. その他 ()
配布試料を希釈した水	1. 蒸留水 2. 交換水 3. 超純水 4. その他 ()
測定に使用した水	1. 蒸留水 2. 交換水 3. 超純水 4. その他 ()

注1) 「流れ分析法」とは、FIA(フローインジェクション分析)及びCFA(連続流れ分析法)を指す。

<ペルオキシ二硫酸カリウム分解法>

試料量(分析用試料)の希釈 濃縮	希釈倍率 () 注1) 濃縮倍率 () 注1)
試料(又は希釈・濃縮した試料)量	1. 50 mL 2. その他 () mL
ペルオキシ二硫酸カリウム溶液の添加量	1. 10 mL 2. その他 () mL
分解瓶の種類 容量	1. 四フッ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 () mL
加熱分解 温度 時間	1. 約120℃ 2. その他 ()℃ 1. 30分 2. その他 ()分間
加熱分解後の溶液の分取量	1. 25 mL 2. その他 () mL
モリブデン青の溶媒抽出	1. 行わない 2. 行う 2. の場合 溶媒の種類 1. DIBK 2. その他 ()
吸収セルの光路長	1. 10 mm 2. 50 mm 3. その他 () mm
測定波長	() nm

注1) 希釈倍率又は濃縮倍率のいずれか一方を記入する。

希釈又は濃縮しない場合には、希釈倍率又は濃縮倍率を「1」とする。

分析結果報告書〔8〕3/3

<検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注1) 作成範囲の単位：1. μg 2. mg/L 3. その他 () ()
標準液濃度の表示 注2)	1. リン (P) 2. リン酸イオン (PO_4^{3-}) 3. その他 ()
試料の指示値 注3)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注4)	()
装置検出下限値 (IDL)	() mgP/L 注5)
IDL の算出方法	1. JIS K 0102 46.3 に記載されている数値を引用 2. JIS K 0115 (吸光光度分析通則) に記載されている方法 3. JIS K 0170-4 に記載されている数値を引用 4. JIS K 0126 (流れ分析通則) 附属書 A に記載されている方法 5. 3σ 法で計算 (5. の場合 σ の算出法：(濃度) mg/L (繰り返し回数) 回) 6. その他 ()
分析法検出下限値 (MDL)	() mgP/L 注5)
MDL の算出方法	1. JIS K 0102 46.3 に記載されている数値を引用 2. JIS K 0115 (吸光光度分析通則) に記載されている方法 3. JIS K 0170-4 に記載されている数値を引用 4. JIS K 0126 (流れ分析通則) 附属書 A に記載されている方法 5. 3σ 法で計算 (5. の場合 σ の算出法：(濃度) mg/L (繰り返し回数) 回) 6. その他 ()

注1) 分析装置で測定する溶液中の量 (μg) 又は濃度 (mg/L) 等を記入する。

注2) 検量線の作成に用いた標準液濃度の表示方法を示す。

注3) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

<試料の保存状況>

保存状況 保存方法等 保存時間 注1) 保存温度	1. 冷蔵所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 () 約 () $^{\circ}\text{C}$
--------------------------------	--

注1) 時間単位で記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
計算式	